

【第9章:勘合貿易と室町文化】

<東アジアとの交流>

①明の建国

1368年 明:中国で漢民族が建国

倭寇が活発になったため、日本に取りしまりを要求。

②勘合貿易(日明貿易)

足利義満が明の要請にて倭寇の取りしまりを行う。

→朝貢形式にて、勘合貿易(日明貿易)を始める。

勘合貿易:正式な貿易船に勘合という割符(証明書)を持参させる。

輸入:明銭、生糸、絹織物、陶磁器、水墨画など。

輸出:銅、硫黄、漆器、刀剣など。

③朝鮮の建国

14世紀末:李成桂が高麗をほろぼし、朝鮮を建国(李氏朝鮮)

④朝鮮との貿易

輸入:綿織物、仏教の経典、陶磁器など

輸出:銅、硫黄など

<琉球王国とアイヌ民族>

①琉球王国

15世紀:尚巴志により統一され、首里を都とする琉球王国を建国。

→日本や明、朝鮮、東南アジアを結ぶ中継貿易で栄える。

②アイヌ民族

蝦夷地(北海道)ではアイヌ民族が生活

13世紀ごろまでにはアイヌ文化が成立、大陸の人々とも交易

14世紀ごろに津軽半島(青森県)の十三湊で安藤氏と交易

蝦夷地南部に本州の和人が移住

→15世紀半ばに首長:コシヤマインが蜂起

→和人が勝利し支配を強める。

【室町時代の生活】

<農業と手工業>

①農業

二毛作・生馬糞・新肥料の使用・かんがい技術がさらに広まる。

②商品作物

麻・綿・茶・藍・桑などの栽培

③手工業

絹織物：西陣織(京都)

和紙：美濃(岐阜県)・越前(福井県)

<商業・交通>

①商業・金融

定期市：月3回から月6回に増加。

座：商工業者の同業者組合

→座による営業の独占が行われる。

明銭などの貨幣の流通により金融業が発達

土倉・酒屋：高利貸し

②交通

輸送業：馬借・車借

問屋(問丸)

交通の要所には貴族や寺社により関所が設置→通行税の徴収を行う。

<民衆による自治>

①村の自治

惣(惣村):近畿地方を中心に発達した農民の自治組織。

寄合を開き、村のおきてを決める。

土一揆:土倉・酒屋・寺院などをおそい借金の帳消しを求める(徳政令)

【例】1428年:正長の土一揆

②民衆による自治

産業や流通の発展

→各地の門前町・港町・宿場町や戦国大名の**城下町**などが栄える。

<各地の自治>

京都:**町衆**(商工業者)が祇園祭を復興

堺 :会合衆

博多:年行事

【応仁の乱と戦国時代】

< 応仁の乱 >

① 応仁の乱の背景

8代将軍足利義政の後継ぎ争い

→ 守護大名の細川氏(東軍) VS 山名氏(西軍)が対立

→ 1467年: 応仁の乱がおこる(京都から拡大し、11年間続く)

② 応仁の乱の影響

幕府の力がおとろえ、地方の武士や民衆が力をつける。

→ 実力を持った下位の身分の者が上位の者に打ち勝つ(下剋上)

→ 戦国時代の始まりへ

<一揆の発生>

1428年:正長の土一揆

場所:近江国(滋賀県)

内容:馬借らが徳政を求めて土一揆をおこし、土倉や酒屋などをおそう
→近畿地方を中心に拡大

1485年:山城の国一揆

場所:山城国(京都府南部)

内容:地方武士(国人)と農民が守護大名を追い出し、約8年間自治を行う。

1488年:加賀の一向一揆

場所:加賀国(石川県南部)

内容:一向宗(浄土真宗)の門徒集団が守護大名を追い出し、約100年間自治を行う。

<戦国時代>

①戦国大名の登場

戦国大名:守護大名やその家臣などが力をつけ、下剋上の風潮の中で台頭してきた大名

戦国時代:戦国大名が領地拡大を求めて争った約100年間

②戦国大名による支配

独自の分国法を制定

城の周りに城下町をつくる

【室町文化】

<背景と特徴>

①背景

朝廷と同じ京都に室町幕府が成立

②特徴

公家文化と武家文化がまじりあう文化

<北山文化>

時期:3代将軍足利義満のころ

(建築)

金閣: 足利義満が北山の山荘にたてる。
鹿苑寺にあり、公家文化と武家文化の融合を示す

(芸能)

能(能楽): 猿楽・田楽などの民間芸能が発展
観阿弥・世阿弥父子によって大成

狂言 : 能とともに行われる、民衆の生活や感情をよくあらわした喜劇

<東山文化>

時期:8代将軍足利義政のころの文化

(建築)

銀閣:足利義政が東山の山荘にたてる。

慈照寺にあり、簡素で深みのある東山文化の代表例

東求堂同仁齋:銀閣と同じ慈照寺にある。書院造の代表例

書院造:和風建築のもと。

畳・ふすまや障子

(庭園)

枯山水:水を使わず砂や岩などで自然を表現

(例) 竜安寺庭園・大徳寺大仙院庭園

(絵画)

水墨画:墨一色の濃淡でかけられる。

雪舟が様式を確率

(文学)

御伽草子:やさしい文章で書かれた絵入りの物語

(例) 浦島太郎・一寸法師・ものぐさ太郎

(芸術)

連歌:和歌の上の句と下の句を別々の人が詠みつぐ

宗祇により確率

その他)

侘び茶や生け花も始まる。